

ねむる感動紀行

ねむる半島遊覧バス「のさっぷ号」 (根室半島一周北方領土問題啓発バス)

A のさっぷ岬コース 2時間35分				
コース	到着	出発	見学時間	備考
根室駅前バスターミナル	—	8:15	—	JR花咲線 根室駅8:00着
明治公園	8:20	8:30	10分	
本土最東端・納沙布岬	9:00	9:50	50分	
北方原生花園	10:05	10:15	10分	
金刀比羅神社	10:30	10:40	10分	
根室駅前バスターミナル	10:50	—	—	JR花咲線 根室駅11:03発釧路行き及び 釧路13:42発おそら8号に接続

B 車石・風蓮湖コース 4時間30分				
コース	到着	出発	見学時間	備考
根室駅前バスターミナル	—	11:00	—	JR花咲線 根室駅10:53着
根室市歴史と自然の資料館	11:15	11:40	25分	月曜日、祝日は休館 (月曜日が祝日の場合は翌日も休館) ※車石見学のみ
花咲灯台車石	11:45	12:10	25分	
道の駅スワン44ねむる	12:35	13:30	55分	月曜日休館 (月曜日が祝日の場合は翌日休館)
根室市春国岱原生野鳥公園 ネイチャーセンター	13:35	14:30	55分	水曜日と祝日の翌日は休館につき 春国岱を見学
北海道立北方四島交流 センター	14:40	15:20	40分	
根室駅前バスターミナル	15:30	—	—	JR花咲線 根室駅16:10発釧路行き及び 釧路19:00発おそら12号に接続

※施設休館に伴い、見学時間帯が変更になる場合があります。



1 運行期間
令和5年5月1日(月)~10月31日(火) 毎日運行 (予約制)
予約先 根室交通ホームページよりご予約ください。
根室交通 検索
お問合せ先 TEL 0153-24-2201
※予約は乗車希望日前日の12:00まで受付
※キャンセルの場合も前日の12:00まで

3 お問合せ先
根室交通(株) TEL/0153-24-2201 根室市観光協会 TEL/0153-24-3104

道の駅スワン44ねむる休館日の場合 A のさっぷ岬コース 3時間25分				
コース	到着	出発	見学時間	備考
根室駅前バスターミナル	—	8:15	—	JR花咲線 根室駅8:00着
明治公園	8:20	8:30	10分	
本土最東端・納沙布岬	9:00	10:00	60分	
ランネモトチャシ跡群	10:05	10:40	35分	
北方原生花園	10:50	11:00	10分	
金刀比羅神社	11:15	11:30	15分	
根室駅前バスターミナル	11:40	—	—	JR花咲線 根室駅13:34発釧路行き及び 釧路16:12発おそら10号に接続

道の駅スワン44ねむる休館日の場合 B 車石・風蓮湖コース 3時間30分				
コース	到着	出発	見学時間	備考
根室駅前バスターミナル	—	12:00	—	JR花咲線 根室駅10:53着
花咲灯台車石	12:15	12:45	30分	
道の駅スワン44ねむる	13:10	13:30	20分	月曜日休館 (月曜日が祝日の場合は翌日休館) ※風蓮湖見学のみ
根室市春国岱原生野鳥公園 ネイチャーセンター	13:35	14:30	55分	水曜日と祝日の翌日は休館につき 春国岱を見学
北海道立北方四島交流 センター	14:40	15:20	40分	
根室駅前バスターミナル	15:30	—	—	JR花咲線 根室駅16:10発釧路行き及び 釧路19:00発おそら12号に接続

※施設休館に伴い、見学時間帯が変更になる場合があります。



2 運賃

A のさっぷ岬コース	所要時間2時間35分	大人3,300円	小人1,650円
B 車石・風蓮湖コース	所要時間4時間30分	大人3,100円	小人1,550円
A+B 一周コース	所要時間7時間05分	大人4,800円	小人2,400円

道の駅スワン44ねむる休館日の場合

A のさっぷ岬コース	所要時間3時間25分	大人3,300円	小人1,650円
B 車石・風蓮湖コース	所要時間3時間30分	大人3,100円	小人1,550円
A+B 一周コース	所要時間6時間55分	大人4,800円	小人2,400円



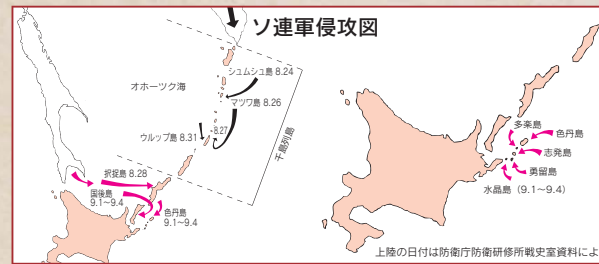
北方領土とは

私たちが「北方領土」と呼ぶのは、歯舞群島(多楽島、志発島、勇留島、秋勇留島、水晶島、貝殻島など)色丹島、国後島、択捉島の四島です。

これらの島々は、私たちの父祖が開拓してきた日本固有の領土です。四島に関しては、既に1799(寛政11)年当時の幕府がこれらの島に常設の番所を置き、実際にこれを統治しました。ロシアの実効支配が四島に及んだことは一度もありませんでした。この北方四島の返還を実現して平和条約を結び、日ロ両国の間に真の安定した友好関係を築きたい。これが、私たちの基本的な考えです。

占領された「日本の領土」

我が国固有の領土である北方領土(歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島)は、終戦直後突然ソ連に占拠されました。そして、戦後78年を経た今日、未だにロシアの不法占拠の下に置かれたままです。



1945(昭和20)年8月9日、ソ連は、当時まだ有効であった「日ソ中立条約」を無視して対日参戦しました。そして、8月14日に日本がポツダム宣言を受諾し、降伏の意図を明確に表明した後の8月18日、カムチャツカ半島から第2極東軍が進撃して千島列島(クリル諸島)の最北端シュムシュ島から占領を開始し、31日までに南端であるウルップ島の占領を完了しました。

これとは別に、樺太から進撃した第1極東軍は、当初北海道の北半分(釧路・留萌ライン以北)及び北方四島の占領を任務としていましたが、前者につき米国の強い反対にあったためこれを断念するとともに、米軍の不在が確認された北方四島に兵力を集中し、8月28日から遅くとも9月5日までの間に択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島の全てを占領してしまいました。(ちなみに、これら四島占領の際、日本軍は抵抗せず、占領は完全に無血で行われました。)

当時、ソ連自らも択捉島以南の四島はウルップ島以北の島々とは異なったものであると認識しており、択捉島以南の四島の占領は、計画のみで中止された北海道北部と同様、日本の固有の領土であることを承知の上で行われたとの事実がここに示されています。

歴史が語る北方領土

日本が北方領土の返還を要求するには歴史的・国際的に正当な根拠があります。

徳川幕府撰正保日本国図(1644年)

わが国はロシアより早く、北方四島、樺太及び千島列島(クリル諸島)の存在を知り、既に1644(正保元)年には「クナシリ(国後)」島、「エトロホ(択捉)」島、等の地名を明記した地図(正保御国絵図)が編纂され幾多の日本人がこの地域に渡航していました。わが国の松前藩は、17世紀初頭より北方四島を自藩領と認識し、徐々に統治を確立していきました。

これに対し、ロシアの勢力は、18世紀初めにカムチャツカ半島を支配した後によりやく千島列島の北部に現れて、わが国と接触するようになりました。1792(寛政4)年にはロシアの使節ラクスマンが根室に来訪してわが国との通商を求めています。

当時の幕府は、「鎖国の祖法」を理由に通商を拒否しつつ、近藤重藏、間宮林蔵らを国後島、択捉島や樺

太にそれぞれ派遣して実地調査を行い、これらの地域の防備に努めるとともに、択捉島およびそれより南の島々に番所を置いて外国人の侵入を防ぎ、これらの島々を統治しました。

他方、ロシアも千島列島に遠征隊を送って調査を行ったが、露米会社などを通じて進出をはかりました。しかし、ロシアの勢力がウルップ島より南にまで及んだことは一度もありませんでした。

このように北方領土は、一度も外国の領土となったことのない日本固有の領土であります。

条約から見た北方領土

北方領土は、いまだかつて一度も外国の領土となったことのない日本固有の領土です。

日魯通好条約

1855(安政元)年2月7日伊豆・下田で「日魯通好条約」が結ばれました。

その第2条で、両国の国境を択捉島とウルップ島の間に定め、ウルップ島より北に連なる千島列島はロシア領とすると定めました。これにより歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の北方四島は、日本の領土であることが法的に確認されました。また、同条約では、樺太は両国民の混住の地と決められました。



樺太千島交換条約

1875(明治8)年わが国は、ロシアと樺太千島交換条約を結び、千島列島をロシアから譲り受けるかわりに、樺太全島の権利を放棄しました。この条約第2条で譲り受ける千島列島として、シュムシュ島からウルップ島までの18島の名が列挙されています。

この事実、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島がロシアから譲り受けた千島列島(The Kurile Islands)ではないことを明確に物語っています。



サンフランシスコ平和条約

1951(昭和26)年9月8日、サンフランシスコ平和条約に署名し、同条約第2条C項で、日本は千島列島並びに樺太の一部の権利、権限及び請求権を放棄しましたが、我が国が放棄した千島列島には、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の北方四島は含まれていません。

日ソ共同宣言

ソ連が、サンフランシスコ平和条約の署名を拒否したため、我が国はソ連との間で別個に平和条約を結ぶことになり、交渉が始まりました。しかし、ソ連は歯舞群島、色丹島については、我が国に返還することを約束しましたが、国後島、択捉島については、最後まで意見が一致しませんでした。このため、「松本・グロムイコ書簡」で、領土問題を含む平和条約交渉は、正常な外交関係が再開された後に継続されるとの合意がなされ、1956(昭和31)年10月19日「日ソ共同宣言」が署名され、国交の回復が図られました。

バスで巡る根室の旅

ねむる半島遊覧バス「のさっぷ号」



運行期間

令和5年5月1日(月)~10月31日(火)

毎日運行 (予約制)

予約先: 根室交通株式会社
TEL 0153-24-2201
(席に余裕がある場合は、当日のご乗車可)

予約サイトはこちら



大自然の宝石箱、ねむろ。鳥も動物も、植物も、みんなキラキラ。根室は、大自然の輝石がいっぱい詰まった宝石箱。

車石・風蓮湖コース

道の駅スワン44ねむろ

国道44号線沿いにある「道の駅スワン44ねむろ」は、風蓮湖を一望することができる絶好のロケーション。風蓮湖は海水と淡水からなる汽水湖で、周囲には広大な湿原や森林、砂丘など、変化に富んだ自然が広がっています。

そこにはオオハクチョウをはじめタンチョウやオオワシなど、日本で見ることでできる野鳥の半数以上にあたる約330種類を観察できる野鳥の楽園。オオハクチョウの国内最大級の飛来地でもあり、春と秋には数千羽が風蓮湖を目指してやって来ます。湖に沿って木道と展望デッキが整備されており、ゆったりとした気分で自然に親しむことができます。



●住所	根室市臨陽1番地
●電話	(0153)25-3055
●開館時間	9:00~17:00 (4~10月) 10:00~16:00 (11~3月)
●休館日	月曜日 ※月曜が祝日の時は翌日 年末年始 (12月29日~1月5日)

根室の自然

根室半島には豊かな自然に生まれ、エゾシカ、キタキツネなどの野生動物が多く生息しています。また、三方が海に囲まれ、湖沼も点在していることから、水生生物も多種多様です。



根室は野鳥の楽園としても有名で、風蓮湖や温根沼（おんねとう）に飛来するオオハクチョウは壮観です。また、オジロワシ、オオワシ、ヒシクイ、タンチョウなど、国の天然記念物に指定されている野鳥と出会うこともでき、中でもアイヌ語で「美しいくちばし」を意味するエトピリカは、日本では根室周辺でしか繁殖していないとても貴重な海鳥であり、北方領土イメージキャラクター「エリカちゃん」のモチーフにもなっています。

根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター



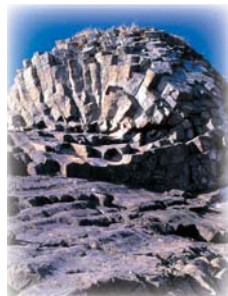
春国岱は、オホーツク海と風蓮湖の間を仕切る長さ8km、最大幅1.3kmの長大な島。ほとんど手つかずのままの自然がまとまって残されており、干潟や草原、湿原や森林には、タンチョウやオジロワシなど、希少な野鳥をはじめとするさまざまな動植物が生息します。春国岱ネイチャーセンターは、春国岱の自然環境保全と環境教育的活用のため根室市が設置した施設で、常駐している自然専門職員が、現在出会える生きものや自然の見どころを、わかりやすく紹介してくれます。



●住所	根室市東梅103番地
●電話	(0153)25-3047
●開館時間	9:00~17:00 (4~9月) 9:00~16:30 (10~3月)
●休館日	水曜日 (祝日の場合、その翌々日) 祝日の翌日、年末年始 (12月29日~1月3日)
●入館料	無料

花咲灯台車石

根室の名産である「花咲ガニ」。その名前の由来は諸説あり、日本有数の漁獲高を誇る花咲港に由来するとも言われています。その花咲港を照らす日本の灯台50選に選ばれた「花咲灯台」。その灯台の下の断崖絶壁にあるのが奇岩「車石」です。玄武岩の放射状節理で車輪を思わせる独特の形状をしており、世界的に珍しく国の天然記念物に指定されています。



風蓮湖

春国岱

北海道立北方四島交流センター

オホーツク海を一望できる丘の上にある道立施設。愛称は「ニホロ」で、日本（ニ）とロシア（ロ）をつなぐ、北海道（ホ）の交流拠点施設を意味しています。館内には、北方四島の歴史、生活、交流、返還要求運動などを映像機器等で紹介する展示室やロシアの民族衣装や楽器・民具などロシア文化を紹介する部屋などがあり、見て学んで触れ合うことができます。



●住所	根室市穂香110-9
●電話	(0153)23-6711
●開館時間	9:00~17:00 (展示箇所)
●休館日	月曜日 (5~10月は無休) 年末年始 (12月31日~1月5日)
●入館料	無料

感動の最先端、ねむろ。ときめきとロマンが交差する根室半島。自然が、歴史が、人々が、数々の物語を生み出す。

のさっぶ岬コース

金刀比羅神社

金刀比羅神社は北洋漁業の先駆者、高田屋嘉兵衛が1806(文化3)年に建立し、1881(明治14)年に琴平町の高台に移築されました。8月の第2週週末に行われる例大祭は、北海道三大祭りのひとつとして数えられています。根室を代表するお祭りとして市民からは「こんびらさんのお祭り」として親しまれており、重さ1.5トンの御神輿や祭典区の趣向を凝らした山車などが繰り出して華やかに練り歩きます。



根室半島

かつて花咲半島と呼ばれていた根室。行く先々で可憐な花々が出迎えてくれます。オホーツク海に面した北方原生花園は、約75ヘクタールというビッグスケール。市の花のユキワリコサクラやミズパショウ、エゾカンゾウなど、約100種類もの花々が咲き競います。

6月下旬から7月中旬、一帯を紫色に染め上げるヒオウギアヤメは特に見事。晴れの日の眺めはもちろん、海霧がかかったときの幻想的な美しさも訪れる人を魅了してやみません。原生花園を巡る木道を行くと、さまざまな感動が待ち受けています。

強い風や雪によって、木々がなびくように変形したミズナラ林もあり、自然の力を垣間見ると同時に植物のたくましさに胸打たれることでしょう。



根室市内の見どころ

緩やかな坂道が多く、眺めは抜群。新鮮な魚介類はもちろん、洋食がおいしいのも歴史ある港町ならではの。カツランチ風の料理・エスカロップは、「根室に来たなら、これを食べなきゃ!」というおすすめメニューで、喫茶店やレストランで味わうことができます。8月には根室を代表する味覚「花咲ガニ」を味わう「根室かに祭り」、10月には水揚げ日本一を誇る「さんま」をPRする「根室さんま祭り」が開催されます。



根室市歴史と自然の資料館

この資料館のレンガ造りの建物は、1942(昭和17)年に、大湊海軍通信隊根室分遣所として建設されたもので、第二次世界大戦後は花咲港小学校校舎として利用され、1990(平成2)年には根室市郷土資料保存センターに改修されて、歴史や自然資料の保存・管理施設となりました。さらに現在は資料館として利用しています。



●住所	根室市花咲港209番地
●電話	(0153)25-3661
●開館時間	9:30~16:30
●休館日	月曜日、祝祭日 (月曜日が祝日の場合は翌日も休館) 年末年始 (12月29日~1月3日)
●入館料	無料

納沙布岬

納沙布岬は、本土最東端に位置する岬で、日本本土で一番早く朝日が見られるスポットとしても有名です。岬に立つと貝殻島や水晶島など、北方領土がすぐ目の前に。多くの人が想像していたよりも、はるかに近いことに驚きます。

先端にある納沙布岬灯台は、1872(明治5)年に点灯された北海道で最古(現在の灯台は1930(昭和5)年建設)のもの。周辺には、返還祈念の願いが込められたモニュメント・四島のかけ橋や北方領土資料館、北方館などがあります。



千島列島と北方領土

千島列島は、北海道とカムチャツカ半島の間に弧状に並ぶ大小23の島々の総称。このうち南千島の四島(歯舞群島、国後島、色丹島、択捉島)は、古くからの日本固有の領土で、戦前まで多くの日本人が暮らしていました。現在、さまざまなかたちで返還要求運動が進められており、根室はそれらの島々への渡航や交流の拠点となっています。

